

公表:令和 5年 3月 15日

事業所名 いろどりジュニア白河

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏 まえた改善内容又は改善 目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		・出来る限りの工夫はしているが、スペース確保する事が難しい。	・スペースの使い方を継続して職員間で見直して行き、都度適切化を図る。
	②	職員の配置数は適切であるか		○		・職員数が少ない時でも安全確保して常に注意を払って支援している。	・送迎時には職員数が全職員ではないので、毎日の打ち合わせでの職員の動き等を確認。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	・出来る限りの工夫はしているが、建物の構造上バリアフリーが難しい。	・必要な個所は優先順位をつけて適切化を図る。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○				・毎日の打ち合わせや月例会議で職員の意見交換、共有、統一を図り業務改善に努める。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか		○			・今年度新規事業所なので、今回から業務改善に繋げる。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○				・今年度新規事業所なので、今回から公開をする。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○		・現在は行っていないが、必要に応じて検討を行う。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・内部研修を行っている。	・内部研修は行っているものの外部研修は参加させる事が出来なかったため、研修計画案を立てて参加しやすくする。
適切	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○				
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○				・共通の取り組みで進められるよう職員が統一をする。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○				・児童によって達成度が違うので固定化する場合もあるが、同じ目標でも違う方法で固定化せずに取り組める事も取り入れる。

的な支援の提供	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・課題を設定し支援を行い、変更等があれば職員間で話し合いをして、共有、統一した支援を行う。
---------	---------------------------------------	---	--	--	---

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				・個別活動に関してはデータ化出来るものはデータ化を行う。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○					
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○				・支援終了後の当日には行えないので、ケース記録を振り返りながら行う。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○				・年1回はケース記録について内部での勉強会を行っている。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○					
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○					
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○					
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○				・トラブル発生時、学校との情報共有が出来ない学校もある。情報共有が出来ていない学校はケース会議で連絡調整が上手くいくよう話し合いをしている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか					・対象児童なし。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○			・今年度新規事業所なので、次年度へ向けて情報共有を図るための動きを行う。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか					・学校を卒業した利用児童がいらない為分からない。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○			・連携、助言や研修を受ける事は少ないので今後は自事業所から働きかけていきたい。	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか			○		・コロナ禍もあり、まだ実施なし。	・コロナ禍のため、交流する機会がなかった。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○					・人員配置の関係で参加は難しかった。

	⑳ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	○			。迎え時に持っているが、児童もその場におり、話しにくい事もあるので電話をする。事業所に来て頂く、家庭へ訪問する等も実施を検討。	
	㉑ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか				○	・職員がペアレントトレーニングに参加し保護者にも支援を行える状況を今後作る。	
保護者への説明責任等	㉒ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○					
	㉓ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○				・事業所側から家庭への訪問、事業所へ来て頂き面談等が出来るように促していく。	
	㉔ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか					○	・コロナ禍のため、開催が出来ていない。来年度は実施予定。
	㉕ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				・事例なし。	・苦情前の件(要望)、苦情に対して迅速に対応を行い、謝罪、経緯説明(職員間での聴き取りの後)を行う。その後職員間で話し合いを行い、再発防止策を作成し、子供や保護者に対して、再度謝罪、説明、再発防止策を伝達し了承を頂く。
	㉖ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○					・来年度は担当制にして定期的に配布をする。
	㉗ 個人情報に十分注意しているか	○					
	㉘ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○					
	㉙ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか					○	・コロナ禍もあり、まだ実施なし。
非常時等	㉚ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○					・コロナウイルス感染症に対しては配布を行ったが、その他のものは作成済みなので再度周知徹底を行う。
	㉛ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○					
	㉜ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○					・内部研修は行っているものの外部研修は参加させる事が出来なかったため、研修計画案を立てて参加しやすくする。 ・園長の定期的な職員への聴き取りを来年度も実施して頂く。

の 対 応	④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○				・再度説明を行う。
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			・対象児童なし。	
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・ヒヤリハット作成後に職員間で共有、検討を行い再度作成している。また、月例会議でも更に発表を行っている。	・継続してヒヤリハット後に職員間で共有、検討を行う。月例会議でも再度行う。 ・他事業所との交流で違う視点で見てもらっても良いのではないか。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。